

近世初期文芸

第40号

目次

『元の木阿弥』の人物造形 その1 — 「花のお江戸」と「すりきり」と —	董航	1
『続長崎鑑』の成立過程の考察 — 長崎歴史文化博物館蔵本をめぐって —	小原亨	15
『竹斎』再論 (その九)	位田絵美	21
浅井了意関係資料についての報告 (一)	田中宏	35
『近世初期文芸』規約・投稿規定	和田恭幸	47
		51

令和5年12月

近世初期文芸研究会

『近世初期文芸』規約・投稿規定

一九七〇年一月十五日制定。

二〇二〇年五月二十五日改訂。規約一〜三条明文化。投稿規定作成。

二〇二三年五月十六日改訂。規約四・五条付加。投稿規定公開。

◆本研究会規約

- 一、近世初期文芸研究会は、日本近世文学の中の特に初期文芸作品に焦点をあて、広く同時代のさまざまな文献の発掘・調査・分析・解釈を行う、学術研究を目的とした非営利団体である。
- 二、『近世初期文芸』は、近世初期文芸研究会の公的な研究雑誌であり、年一回の刊行を行う。
- 三、近世初期文芸研究会の年会費は無料である。ただし、研究雑誌『近世初期文芸』刊行継続のため、本誌の執筆者は投稿した原稿量に合わせ、刊行に要した諸経費（印刷料・通信料・送料等の諸経費）を分担する（詳細は、「別紙1」参照。事務局にお問合せください）。

- 四、『近世初期文芸』に掲載された内容は、後日、近畿大学学術情報リポジトリ（<https://kindai.repo.nii.ac.jp>）にて電子版の公開を行う。論文投稿者は、本誌に投稿した段階でこの旨を了承したと見做す。リポジトリ掲載に必要な情報の提供を事務局

から求められた場合は、それに回答すること。

- 五、近畿大学学術情報リポジトリに掲載後も、論文の著作権は投稿者本人に帰す。図版等の公開の責任は、執筆者が負うものとし、当会は公開によって生じる問題に関して、法的責任を負わない。非公開希望の図版等がある場合は、部分的にマスキング処理などを行うので、事前に申し出ること。

◆『近世初期文芸』投稿規定

- 一、日本近世初期の文芸に関する調査・分析・解釈研究の論文、研究ノートであり、本誌の主旨に賛同した内容であること。編集委員会の査読を経て、掲載の可否を決める。査読内規は別紙。
- 二、論文枚数は、図版等を含めて、原則四百字詰原稿用紙三十枚程度を目安とする。（「研究ノート」「書誌調査」等の場合は、別途相談。）
- 三、一行三十字×二十二行×二段組で一頁とする。ただし、一頁目

は見出しとして、上下段とも七行アキとする。【注記】は巻末にまとめ、(1)(2)…で統一する。

「近世初期文芸」研究会 編集委員（あいいうえお順・敬称略）

位田絵美・湯浅佳子・和田恭幸

四、原稿は、三の様式に合わせたワードとPDFの電子データを期日までに事務局へ送付する（メール添付可）。図版などがある場合や、ふりがな・難漢字等正しく出力できない場合は、別途補助的に郵送を用いても良い。

五、原稿に掲載の図版等の著作権・掲載許可等の権利処理は、各執筆者が負う。

六、投稿原稿には、「査読希望」と明記し、論文要旨（四百字詰一枚以内、A4版）を添え、余白に連絡先（郵便番号・住所・電話番号・氏名（ふりがな）・所属・メールアドレス）を記入して、原稿とともに電子データで送付する。

七、原稿締切 九月末日（必着）

八、査読は、「近世初期文芸」編集委員による複数の匿名査読者によつて行われ、結果に基づいて採否を決定し、後日投稿者に連絡をする。原稿の返却はしない。

九、原稿送先 〒八〇三〇八五四

福岡県北九州市小倉北区皿山町二八一四

「近世初期文芸研究会」事務局 位田 絵美 宛

◆『近世初期文芸』第四十号 査読論文

門弟による中江藤樹の孝思想の継承と発展

—熊沢蕃山と淵岡山を中心に—

董航

The Continuation and Development of NAKAE Toju's Thought on Filial Piety by His Disciples: Focusing on the Cases of KUMAZAWA Banzan and FUCHI Kozan

【論文要旨】

「孝」に代表される中江藤樹（一六〇八〜一六四八）の思想は、近世日本思想史研究においてきわめて重要な位置を占めている。藤樹においては、「孝」は親によく仕えることだけにとどまらず、「明德」、「皇上帝」、「良知」、「仏性」、「太虚」、「神明」と一体化した極めて独自のものであった。彼にとって、「孝」は宇宙のあらゆる万物に貫く広大無辺な至徳であり、世界に遍在する根本原理だったのである。

しかし、藤樹の孝思想の伝播と普及についてはまだ十分に明らかにされたとはいえない。なぜなら、個々人の理解力や社会的性差などの障壁により、後世の人々が藤樹の孝思想を必ずしも正しく理解できているとは限らないからである。そこで、藤樹思想解明の嚆矢として、藤樹の直弟子である熊沢蕃山（一六一九〜一六九一）と淵岡山（一六一七〜一六八六）による「孝」の継承と発展に関する考

察を通して、藤樹の孝思想が後世に及ぼした影響について考究することとした。

【編集後記】

『近世初期文芸』第四十号をお届けする。前三十九号から、近畿大学学術情報リポジトリに掲載いただけることとなり、広く国内外から、本誌にアクセスが可能となった。リポジトリ化は、長年の願いでもあり、大変喜ばしいことである。亡き 深沢先生もお喜びくださるものと思う。今後もリポジトリを継続するにあたり、当研究会の規約・投稿規定の公開を行うこととした。当研究会会員に限らず、ジャンルや手法に拘らず、近世初期の文献資料の解釈・鑑賞に、従来にない息吹を吹き込ませられるような意欲に溢れた論文の投稿をお待ちする。

前三十九号から始めた【査読論文】を今号も継続できたことは大変な難いことである。董航氏の論考は、従来、看過されてきた中江藤樹の「孝思想」に関して、その影響と継承の実情を、門弟の熊沢蕃山・淵岡山の思想を中心に丹念に分析を試みた快作である。また、今号から始まった【お寺シリーズ】は、今後も連載していく予定である。

令和五年もさまざまなことがあったが、自らが信じる道を一歩重ねてさらに精進したい。

（位田絵美記）

令和五年十二月十五日 印刷

令和五年十二月二十五日 発行

(二〇二三年)

非売品

近世初期文芸 第四十号

発行所 近世初期文芸研究会

〒803 0854 福岡県北九州市小倉北区

皿山町二八―一四

編集人 位田 絵美

発行人 近世初期文芸研究会

印刷人 吉田 稔

印刷所 稲栄社印刷株式会社

〒211 0022 川崎市中原区荻宿三―七

☎ 〇四四―四三一―〇六五〇

『近世初期文芸』 <https://kindai.repo.nii.ac.jp>
E-mail inden@fuk.kindai.ac.jp